

自然を楽しむアクティビティ



登山・トレッキング



晩秋の羊蹄山（真狩側から）

羊蹄山 (1,893m)

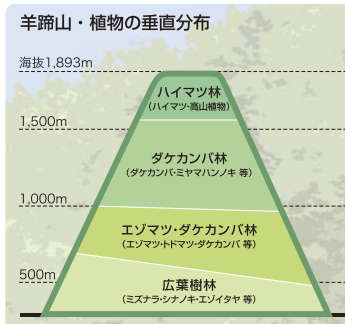
どこからも目立つ美しい独立峰である。登るにつれて開ける展望を楽しみながらゆっくり登れば、高山の花たちが迎えてくれる。頂上には3つの火口がある。高い山なので、登るにはしっかりした装備と心構えが必要である。真狩登山口では、現在、登山者の拠点となる登山センターの建設が環境省によって進められている。完成後は、国立公園や羊蹄山の自然の紹介、登山の注意事項や安全情報の提供などが行われ、トイレ、シャワーも附設される。山麓には多くの湧水地がある。



山頂部のお花畑

羊蹄山の植生の垂直分布

羊蹄山は独立峰であるため、標高による植物の変化がわかりやすい。山麓から標高650mまではハルニレ、ミズナラ、エゾイタヤなどの広葉樹林、その上1,000mまではエゾマツ、トドマツにダケカンバを交えた針葉樹林が広がっている。1,000m付近から1,600m付近まではダケカンバ帯で、上部にはハイマツも現れる。そして1,600m以上が高山帯となる。羊蹄山の高山植物はイワウメ、イワギキョウ、イワブクロ、エゾツガザクラ、キバナシャクナゲなど約260種もあり、独立峰のわりには種類が多い。



公園利用のルールとマナー

貴重な自然を後世にそのまま伝えるため、国立公園では自然を傷つけたり汚したりしないよう、ルールやマナーを守ることが求められる。主なものを挙げてみよう。どれも慣れれば簡単に身につくことばかりだ。

- ❶ 植物を守るため、歩道や木道を外れなくて歩く。
- ❷ ゴミは捨てずに家まで持ち帰る。
- ❸ 植物や石をとらない。とっていいのは写真だけ。
- ❹ 野生動物に顔をやらない。また、追いかけて無理に近寄らない。

有珠山 (733m)



山頂までロープウェイがある。山頂駅から火口原展望台や南外輪ルートを歩けば、過去の噴火の跡と、植物たちの回復の状況を見ることができる。昭和52年(1977)の噴火以前には、ここに牛馬が放牧されていたことを知れば、その変わりように驚かされる。



オロフレ山 (1,231m)



ミヤマオダマキ

洞爺湖と登別温泉の間にあるオロフレ山は、標高が低いにもかかわらず、高山植物が多く生育していることで知られる。登山口は道道の旧道に入ったオロフレ峠にある。途中にはシラネアオイの群落があり、また、7月にはイワヒゲ、チングルマ、ミヤマオダマキなど、数十種の花が咲くお花畑となる。



恵庭岳 (1,320m)



東麓のポロピナイに登山口がある。樹林内は見とおしがきかないが、稜線に出るとカルデラの外輪山が望める。なお、山頂付近は崩落のおそれがあるため、8合目以上は通行禁止になっている。



ノリクヅギ



紋別岳 (866m)



支笏湖温泉の北側にある山。管理用の狭い車道をたどる。山頂からの支笏湖はもちろん、千歳市方面に広がる雄大な平原の眺望もすばらしい。



シラネアオイ



樽前山 (1,041m)



樽前山はまだ噴煙を上げている火山である。山頂までは車道の終点から1時間足らず。ドーム手前の東山から、広い火口原と溶岩ドームを間近に見ることができる。シラタマノキ、イソツツジ、イワブクロなどの植物も見られる。外輪山を一周することもできるが、火口内への立ち入りは危険なので禁止されている。



湖上探勝

船から見る風景は、陸上からとは視点が変わり、新鮮なものだ。支笏湖では4月から11月はじめまで、遊覧船が運航する。水中の景観を探勝するための水中観光船もある。洞爺湖は遊覧船が通年定期運航し、夏は中島に上陸できる。支笏湖と洞爺湖のキャンプ場周辺などでは、自然との一体感を楽しむカヌーの利用も増えてきている。



遊覧船（支笏湖モラップ付近）

自然を楽しむビューポイント

公園内をめぐる道路の沿線からは、湖水と森林のさまざまな表情が楽しめる。

支笏湖エリア

ポロピナイ支笏湖展望台：札幌市と支笏湖を結ぶ国道453号の支笏湖北岸にある。支笏湖と樽前山の展望台。
オコタンベ湖展望台：国道453号から分かれて美笛に抜ける道道沿いにある。恵庭岳の西に静まるオコタンベ湖の展望地点。
美笛峠展望台：支笏湖の西にある国道276号の展望台。樹海の先に支笏湖が姿を覗かせる。



オコタンベ湖展望台

定山溪エリア

豊平峡ダム展望台：ダムサイトの展望台から下流の豊平峡が見事である。
中山峠：札幌と洞爺湖を結ぶ国道230号にあり、羊蹄山や定山溪周辺の連山が一望できる。



美笛峠展望台

洞爺湖エリア

観湖台（洞爺湖町）：洞爺湖北岸の国道の近くにある展望台。洞爺湖と有珠山、昭和南山が一望できる。
オロフレ峠（旧道）：標高930mあり、洞爺湖や羊蹄山、噴火湾が樹林越しに望める。



豊平峡ダム展望台

釣り

北海道ではヒメマスを一般に「チップ」と呼ぶ。アイヌ語のカパチェブが詰まったものである。支笏湖に導入された経緯は別項(p11)にあるが、現在も支笏湖のチップ釣りは人気が高い。支笏湖の静穏な環境と水生植物をまもるため、動力船の乗り入れは許可制になっている。



チップ釣り

雪上の自然観察

スノーシューやクロスカンリースキーを履けば、動物の足跡を探したり、野鳥を観察したり、雪の上を自由に歩いて冬の自然を楽しめる。支笏湖ビジターセンターで、スノーシューハイキングなどを行っているほか、洞爺湖・有珠山周辺や羊蹄山麓でも民間会社がガイドツアーを行っている。

スキーリゾート・ニセコ

羊蹄山の北西方にはニセコ連峰があり、その北方の小樽周辺の海岸を合わせて国定公園に指定されている。ニセコアンヌプリを主峰として東西に延びる標高1,000~1,300mほどの山群である。北海道でも積雪量の多い地域で、ササ原の多いなだらかな地形と、気温が低く雪質の良いことから、スキー場としての評価が極めて高い。近年は海外にまでその存在が知られ、特に季節が日本と逆で時差の少ないオーストラリアからのスキー客が増加している。山麓には温泉が多く、これらを基地とする登山も盛んである。



ニセコ東山スキー場

公園内のキャンプ場

キャンプは自然と身近に接するよい手段だ。公園内には要所にキャンプ場が整備されている。

支笏湖エリア

モラップ：公園内で最も歴史のあるキャンプ場。支笏湖畔で一番大きく、設備も整っている。
美笛：湖畔の林の中にあるモビレージ式キャンプ場。テントサイトまで車で入れる。
ポロピナイとオコタン：ともに支笏湖北岸にある静かなサイト。



モラップキャンプ場

洞爺湖エリア

財田：自然体験ハウスに隣接している。一部オートキャンプにも対応している。
仲洞爺、滝の上：湖の東岸に面した林の中にある。



ソウベツ川遊び（財田キャンプ場付近）

月浦（グリーンステイ洞爺湖）：湖畔のオートキャンプ場として整備されている。

羊蹄山エリア

真狩登山口、半月湖：主に登山者のベースとして使われていたが、近年はキャンプ自体を楽しむ利用も増えている。



ポロピナイキャンプ場

定山溪エリア

定山溪自然の村：豊平峡温泉の奥にある札幌市民の自然体験のための拠点施設。自然体験のプログラムも行われている。

